

歯周炎患者におけるSRPおよびEr:YAGレーザー
一応用による歯石除去時の生体応答の検討
保莉 崇大

キーワード：SRP，縁下スケーリング，Er:YAGレーザー，バイタルサイン

【目的】歯周治療においてSRPは病原因子を除去するために必須の機械的処置であるが，この観血的歯周治療が侵襲として生体に及ぼす影響については未だ十分には明らかにされていない。そこで本研究においては，歯周炎患者におけるSRP時およびEr:YAGレーザーによる歯石除去時の生体応答を検討することとした。

【材料と方法】35歳以上の中等度～重度の広汎型慢性歯周炎（広汎型Stage II・III Grade B）を伴う患者32名を被験者とし，5mm以上の歯周ポケットが存在する3歯を対象部位とした。被験者を無作為に2群（スケーラー群，レーザー群）に割り当て，浸潤麻酔下で手用スケーラーによるSRPまたはEr:YAGレーザー（Erwin Adverl EVO）とレーザー照射用チップ（PS600TS: 20pps, 50mJ, 注水下）による縁下スケーリングを実施した。治療前と治療直後に採血，治療前と治療12週後に歯周検査，治療前・麻酔直後・治療直後に生理指標測定を行った。マルチプレックスアレイにより6種類の炎症性サイトカインを，ELISA法により血清中エンドトキシン，高感度CRP，コルチゾール，アドレナリンを測定した。

【結果と考察】ベースラインの各検査項目間において様々な正もしくは負の相関が確認された。治療後は2群とも同等の治癒効果を示したが，最深の臨床的アタッチメントレベルはレーザー群においてのみ有意に減少した。また，共にバイタルサインを変動させることが示唆された。